

市内景気動向調査結果

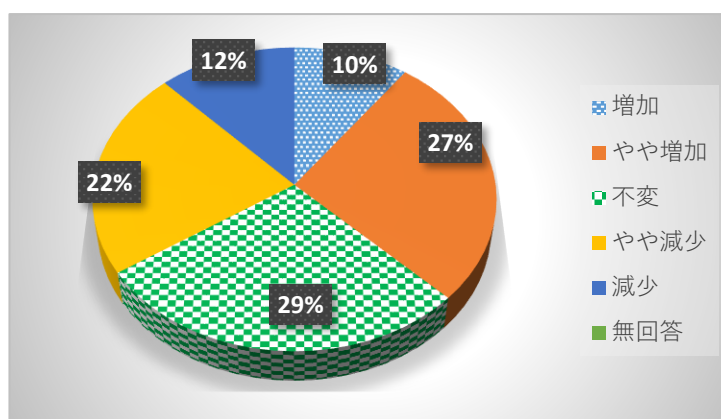
この調査は、第1四半期（令和6年7月から9月）と前年同期（3ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
99	26	13	6	22	27	5

※その他は、回答数が少なかった運輸業、飲食業、不動産業、

1. 売上高はどう変化したか。

増加	10
やや増加	27
不変	28
やや減少	22
減少	12
無回答	0
合計	99

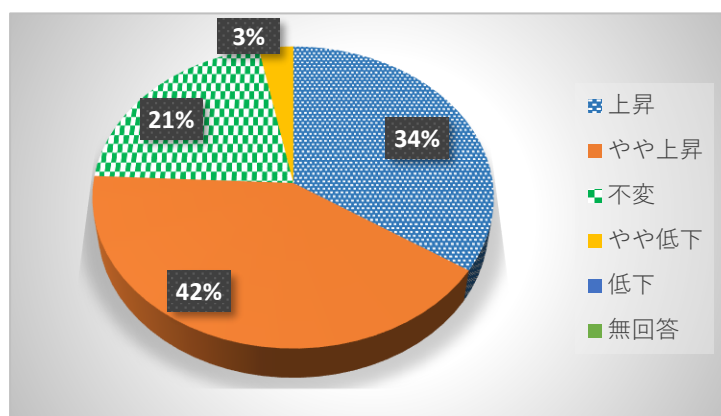


【コメント】

- 増加・やや増加が37.4%、不変が28.3%、やや減少・減少が34.3%であった。前年同期では、増加・やや増加が44.1%、不変が22.0%、やや減少・減少が33.9%であったので、若干減少傾向にある。
- 増加・やや増加の業種別割合は、サービス業が40.7%、建設業が38.5%、卸小売業が31.8%、製造業が15.4%であった。
- やや減少・減少の業種別割合は、製造業が46.2%、卸小売業が40.9%、建設業が38.5%、サービス業が22.2%であった。
- 製造業の売上減少が目立つが、卸小売業で40%超、建設業でも40%近い事業所で売上減少している。

2. 仕入単価はどう変化したか。

上昇	34
やや上昇	41
不変	21
やや低下	3
低下	0
無回答	0
合計	99



【コメント】

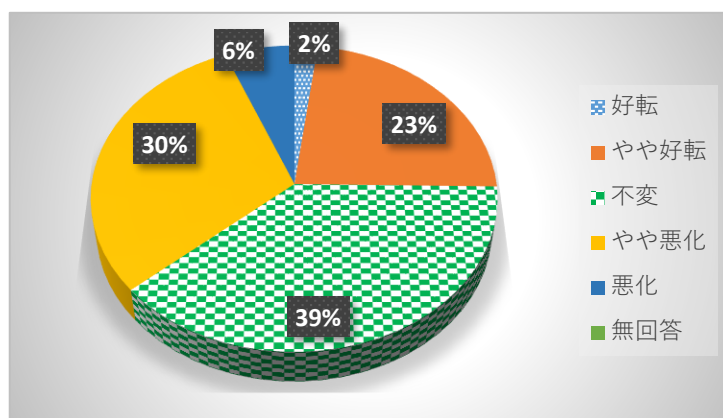
- 上昇・やや上昇が75.8%、不変が21.2%、やや低下・低下が3.0%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が77.1%、不変が19.5%、やや減少・減少が3.4%であった。
- 上昇・やや上昇の業種別割合は、卸小売業が95.5%、製造業が92.3%、

建設業が80.8%、サービス業が55.6%であった。

- 依然として高い水準で、資材や原料、商品価格の高騰が続いている。

3. 採算について

好転	2
やや好転	23
不変	38
やや悪化	30
悪化	6
無回答	0
合計	99

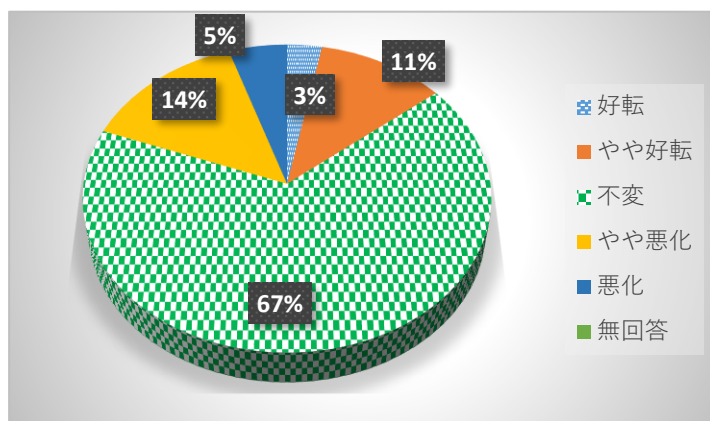


【コメント】

- 好転・やや好転が25.3%、不変が38.4%、やや悪化・悪化が36.3%であった。前年同期の好転・やや好転が25.4%、不変が35.6%、やや悪化・悪化が39.0%であった。
- やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が50.0%、サービス業が40.7%、製造業が38.5%、建設業が30.8%となっている。
- 本年第1四半期では若干改善されたが、原材料価格等の上昇により再び悪化傾向が強まっている。

4. 資金繰りについて

好転	3
やや好転	11
不変	66
やや悪化	14
悪化	5
無回答	0
合計	99

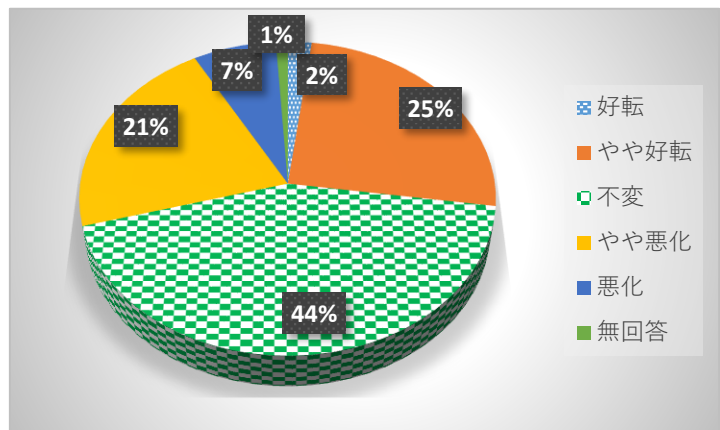


【コメント】

- 好転・やや好転は14.1%、不変が66.7%、やや悪化・悪化が19.2%であった。前年同期の好転・やや好転が19.5%、不変が59.3%、やや悪化・悪化が19.5%であった。
- 資金繰り悪化の業種割合では、卸小売業が27.3%、サービス業が22.2%、製造業が15.4%であった。
- 資金繰りについては、ほぼ前年同期と同様の状況で、資金需要は大きく増えている状況にはない。

5. 業況について

好転	2
やや好転	25
不変	43
やや悪化	21
悪化	7
無回答	1
合計	99

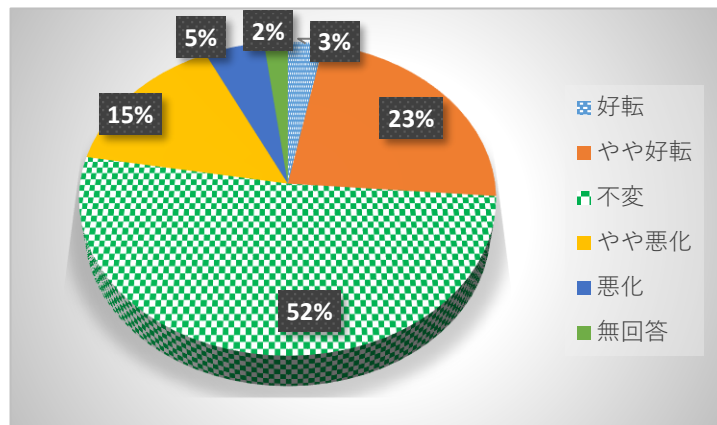


【コメント】

- 好転・やや好転は27.3%、不変が43.4%、やや悪化・悪化が28.3%であった。前年同期は、好転・やや好転が30.5%、不変が36.4%、やや悪化・悪化が31.4%であった。
- 業況好転の割合が高い業種は、卸小売業が36.4%、建設業が34.6%であった。業況悪化の割合が高い業種では、製造業が38.5%、サービス業が29.6%、卸小売業が27.3%であった。
- 良い悪いの二極化の傾向が見られる。

6. 今後3ヶ月間の業況について

好転	3
やや好転	23
不変	51
やや悪化	15
悪化	5
無回答	2
合計	99



【コメント】

- 好転・やや好転が26.3%、不変が51.5%、やや悪化・悪化が20.2%で、前年同期では、好転・やや好転が24.6%、不変が45.8%、やや悪化・悪化が28.8%であった。
- 今後3ヶ月間の業況予想では、不変と回答した企業が5割超となっているが、今後電気料金の値上げや物価高による消費低迷から、小規模事業者にとって厳しい状況が予想される。

■ 回答事業所からのコメント

【建設業】

- 10月1日より値上げの話がある。
- 人手不足と仕入単価が上がったため業況は良くない。
- 人員の入替やコストダウンができたため。
- 環境省、国交省、経済産業省の3省連携による住宅省エネキャンペーンにより、大型リフォーム受注に繋がり売上増になっております。補助金制度がなければ厳しい経営状況が予測されます。

- 受注環境の遅れによる労務費の圧迫がやや悪化に繋がった。現在受注環境が整い、やや好転に繋がると思われるが、予断を許さない。
- 順調に公共工事の受注はできているが、限られた人員のため受注量に限界がある。人員確保が良くなれば売上もまだ好転できる見込みがあります。
- 公共工事売上がこれからになるため。
- たまたま大きめな取引があったため。
- 受注高の変化はありません。
- 年配者の退職が相次いでしまい、人員の補充が難しく困っている。
- 期間中は主な完工現場が無く、やや減少となったが、今後3ヵ月で取り戻せる見通し。電気保安協会の調査で古い住宅関連の引込受口不具合による回収依頼が多く大変だった。

【製造業】

- 原材料費の上昇や袋、資材の値上げなど商品単価の値上げを余儀なくすることに。来客は道外の観光客の方が多くなり、夏はその分売上がダウンせずに過ごせたと思います。新商品も注目してもらえようになり、年末に向け売上が上がるように願うところです。
- 10月から最低賃金の改定とインフレの影響により利益率の低下が懸念される。
- 生産量は若干であるが伸長するも、原材料費や輸送費等の高騰によりコスト上昇で横ばい結果（不変）となっている。改善活動によるコスト、経費ダウンを実行するも大きな効果はなく、製造業ものづくりの地道な活動となっている。薬業界の動向と同様に薬価が下げられ（医療費抑制策）、好転に行かない状況である。
- 販売単価の指標となる鶏卵相場が上昇トレンドにあるとともに、年末にかけては鶏卵の最需要期となり販売数量も確保されるであろうと考えております。
- 販売が鈍化し在庫過多の傾向が見られるため減産、仕入を一時的に停止、これに伴い売上も減少となった。冬に向けて販売需要が上がる見込みなので、今後は好転すると考えている。
- 建築物の総数の悪化により、設備投資意欲が低下傾向である。今後のマーケット状況を注視したい。
- 物価高騰の影響で財布の紐を締めた状態が続いている。
- 原材料費等高騰による。

【運輸業】

- ドライバー不足と本州便のため難しいですね。
- 乗務員確保が最優先であり、最低賃金も10月から上がり人件費増となる見込み。
- 売上単価の見直し、顧客の増加による売上増加が続いています。今後も諸経費の増加、施設老朽化の補填のため利益の確保が課題となります。
- 顧客都合による作業増加で生産性ダウン。

【卸小売業】

- 売上件数の減少。アプローチをかけています。
- 物価が上がっているが、少しずつお客様も理解してくれており、値上げによる売上アップが進んだ。
- 今後3ヵ月については、全く予測不能です。
- いつもどおりに商売をしておりますし、周りの状況も変わっていませんが、ここ数ヵ月前年比100%に届かないしております。
- 大きなイベントに出店したり、イベントを企画、また営業日を増やすなど、今まであまりしていない動きをした。
- 全体的に仕入単価は上昇しているが、納入価格についても受け入れてもらっている。業況については最低賃金の上昇に伴い今後は悪化するのではと考えてる。
- 天候に左右されるので、仕入の時の価格変動、お客様の足並みなど。
- 古い友達を新規採用したところ売上が増加した。年金受給者のため給料も安くて（お互いの契約事項で役員として登録）多少利益が出ている。長く続けば良いのですが。

- 輸入飼料作物（穀類）および肥料の原料等の高騰により、売上（利益）に影響を及ぼしている。

【サービス業】

- 公共工事も秋から年末にかけてピークを迎えますが、大きな変化はありません。
- 人員の確保が見込めず、業況は悪化傾向にあります。
- コロナの流れを引きずり年末の忘年会や年明けの新年会等の催しが行われなくなった。メール、LINE等通信網が発達し、人が集まっていたの会合など行われなくなった。設備も老朽化し改装しようにも資金が調達できない。エスコンの流れがこちらまで回ってこないのが現状です。
- 臨時休業日が増えると予想されるため。
- 人件費を大幅に上げざるを得なく、扶養の壁により12月に勤務できないアルバイトが複数おり（アルバイトの掛け持ちによる）これ以上授業の提供を増やせない状況。
- ウェブによる集客（24時間受付）が好調。オペレーションの改善に取り組んだ結果。コスト削減と在庫整理。苦慮しているのは市営西駐車場に工事関係車両が大量に駐車していて、エスコンでゲームがない日でも早朝から満車になっており、当店来店客が困っている。当店としても余計なコストと労力、お客様のストレスにより迷惑を被っているので何とかしてほしい。
- 人手不足による法人の統合（札幌）で顧問契約の解除。
- 福祉サービス全体としては報酬の改定もあり売上高は増加している（全体では収入プラス）。レストラン部門の売上は約10%減少、販売原価は10%増加となっていて、社会福祉法人として唯一景気動向の指標としている。販売部門の状況は厳しいのが現状です。
- 利用者の登録数の伸びが遅いため。利用者数は変わらずとも利用回数は増えている。10月は利用登録者数が増加するため。
- 売上は大幅に減少。仕入単価の上昇。
- 仕入単価の上昇、物価高により粗利が少ない状況が続いております。今後料金の見直しを考えています。
- 単価の値上げに踏み切ったが、燃料費、光熱費の高止まりの影響により、実績は昨年度と大きく変動はない。

【その他】

- 仕入価格の上昇。
- 仕込みや仕事量は増えているが、原価が上がっており人件費も上昇している。
- 昨年に比べ動き自体は増加（少し）していますが、これから冬に向かう時期は、不動産の動きは鈍くなるため、あまり変わらないと回答しました。